



断熱玄関引戸 錠の調整方法

●この説明書は必ず施工される方にお渡しください。

■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 必ず施工前に、枠の出来寸法が適正であるか確認してください。
- 出来寸法が適正でない場合は、必ず正常な出来寸法に組直し、又は矯正してください。気密・断熱性能の低下・水漏れの原因になります。

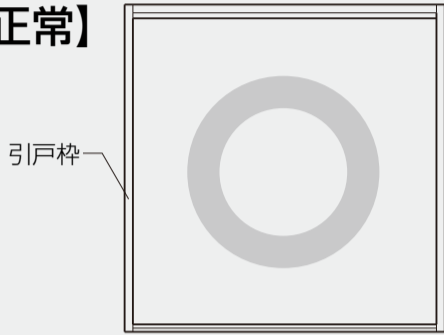
■枠のW方向の確認

- 枠のW方向の寸法(W1・W2・W3)を同じにしてください。錠の位置が合わなくなります。

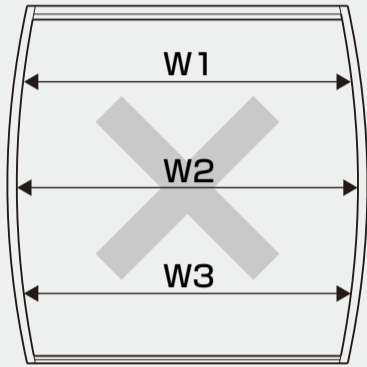
■枠の傾き・倒れの確認

- 枠の傾き・倒れをなくしてください。

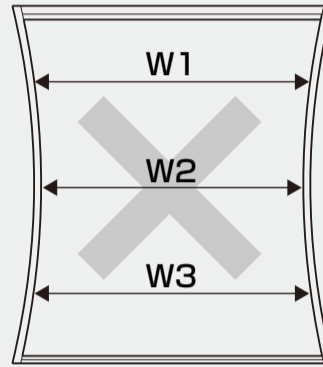
【正常】



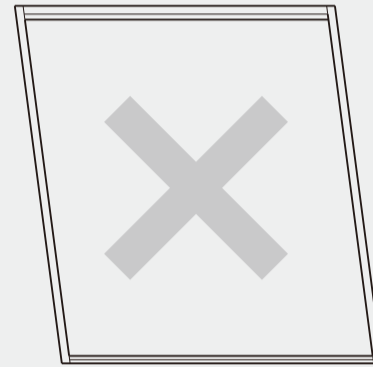
【太鼓状態】



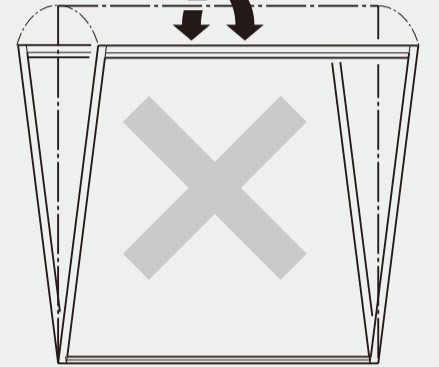
【つづみ状態】



【傾き状態】



【倒れ状態】

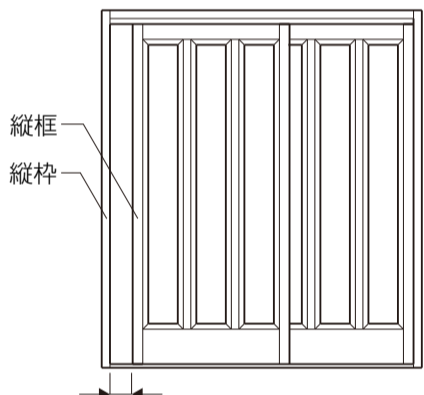


■お願い

- 必ずこの説明書に従って、正しく取付け・調整を行ってください。錠が掛からなくなるおそれがあります。
- 錠の調整には、潤滑油等を使わないでください。ほこりが付着して錠の動きが悪くなります。

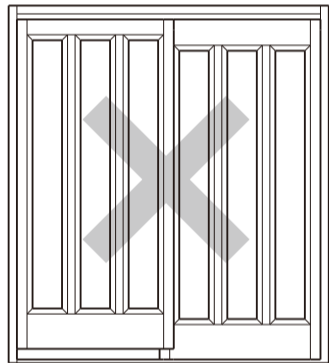
■障子の建付け調整

※障子は一番下がった状態で出荷されます。(調整幅：上方向に5mm)



※障子を少し開いて、縦枠と縦枠が平行になるように戸車を調整してください。

【ズレ状態】



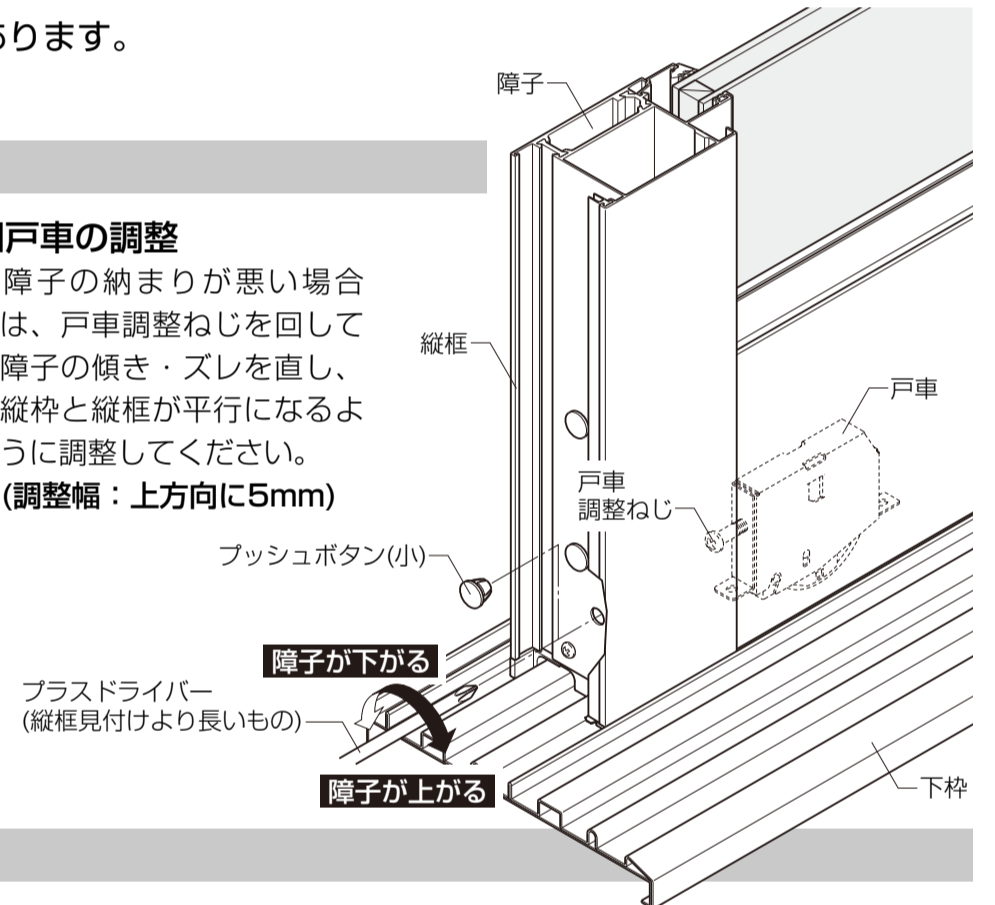
【傾き状態】



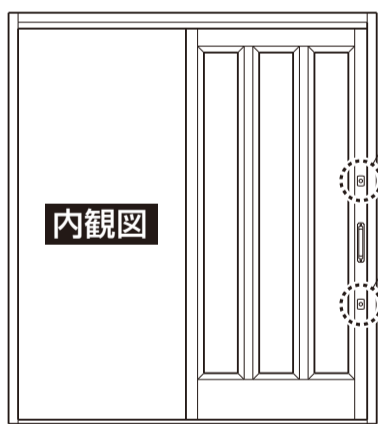
※縦枠と縦枠が平行でない場合は、戸車調整を行ってください。

■戸車の調整

- 障子の納まりが悪い場合は、戸車調整ねじを回して障子の傾き・ズレを直し、縦枠と縦枠が平行になるように調整してください。(調整幅：上方向に5mm)



■錠の調整方法



- 手順①②
メイン錠
(ラッチ機構付き)
- 手順①③
サブ錠
(ラッチ機構なし)

※電気錠仕様の場合、上部のメイン錠は障子のはね返りを防ぐラッチ機構付き、下部のサブ錠はラッチ機構なしになっています。※上部ストライクと下部ストライクは別部品です。錠を掛かりやすくするため、下部ストライクのアーம்பアーを長くしています。

手順① ストライクの調整(メイン・サブ錠)

- 戸車の調整後、上下のストライクの高さ調整をしてください。(右図「ストライクの調整方法①」参照)

手順② メイン錠用ストライクの調整

- 障子を閉めてラッチが掛かれば施解錠できる構造です。ラッチが掛かりにくい場合は、ストライクの寸法を調整してください。(右図「ストライクの調整方法②」参照)

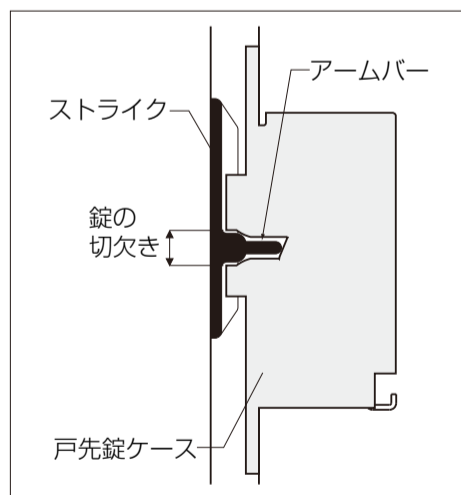
手順③ サブ錠用ストライクの調整

- メイン錠が掛かって、サブ錠が掛かりにくい場合はストライクの寸法を調整してください。
- ※サブストライクには、あらかじめ錠受けスペーサーが1枚セットされています。その状態にスペーサーを追加していく仕様です。(右図「ストライクの調整方法③」参照)

【ストライクの調整方法】

① 上方向の調整

- 引手錠が掛かりにくい場合やラッチが掛かりにくい場合は、ストライク取付けねじを上下2箇所ともゆるめ、ストライクを上方向に調整してください。(調整幅：上方向に5mm)
- ※障子を少し開けた状態で、アーம்பアーが錠の切欠きの中心にくるように調整してください。



② 出方向の調整

- 上方向の調整をしても、錠が掛かりにくい場合やラッチが掛かりにくい、又はラッチ解除がかたい場合は、ストライク取付けねじを上下2箇所ともゆるめ、錠受けスペーサー(枠に同梱)の裏表を確認して枠とストライクの間差し込んでください。(調整量：1枚で約1mm)
- ※1つのストライクにつき最高で4枚まで入りますが、できるだけ少なくしてください。入れすぎると気密材が当たらなくなり、気密性能が低下したり、ストライクが破損するおそれがあります。

